

# 新野球場 28日に協議会

## 県と浜松市 規模や構造を検討

### 知事会見


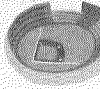

鈴木康友知事は14日の定例記者会見で、浜松市の遠州灘海浜公園篠原地区に整備予定の新野球場を巡り、県と市でつくる新たな協議会を28日に設置し、県庁で初会合を開くと明らかにした。焦点となっている野球場の規模や構造のほか、公園を含む全体の活用構想、県・市・民間企業の役割分担、費用負担、事業手法を検討すると説明し、「前向きな議論を期待したい」と述べた。

浩二副知事が、副会長に長田繁喜浜松市副市長がそれぞれ就き、県市の関係部長が委員を務める。メンバーは計13人で、必要に応じて追加するとしている。

今後、民間企業から運営ノウハウや投資意欲などを意見聴取する。会見に出席した熊谷修孝公園緑地課長は協議会の設置期間について「現時点で期限は設けていない」と述べた。

野球場の規模・構造について、県は基本計画で①1万3千人の屋外型②2万2千人の屋外型③2万2千人の多目的ドーム型下の3案

名称は「遠州灘海浜公園篠原地区利活用推進協議会」。トップの会長に増井

新野球場3案の規模・構造			
屋外型	屋外型A	屋外型B	多目的ドーム型
収容人数	1万3000人	2万2000人	2万2000人
概算事業費	70億円	100億円	370億円
年間維持管理費※	0.5億円	0.7億円	1.3億円
照明	なし	なし	あり
特徴	建設費が最も安価。プロ野球開催が小さい影響を受ける	プロ野球開催の影響を受けにくい	開天受野球場は幅広い開催が可能。建設費が高額

概算事業費と年間維持管理費は2022年度に算出  
※大規模改修費除く

れ、利用される施設となるよう丁寧な議論していく」と表明した。

野球場本体の整備費は最大370億円とされる。県は、市や浜松商工会議所などでつくる期成同盟会が要望する多目的ドームを建設する場合、地元の費用負担を求める方針。中野祐介市長は県が施設整備、市が周辺のまちづくりを担うべきとの立場で、見解が分かれている。

(政治部・森田憲吾)